

日本電子顕微鏡学会会報

2001
No.1

社団法人 日本電子顕微鏡学会

■2001年3月31日発行

■〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9
(財)日本学会事務センター内

■TEL: 03-5814-5801 ■FAX: 03-5814-5820

■E-mail: jsem@bcasj.or.jp

■URL: <http://www.bcasj.or.jp/jsem/>

◇相原 薫元理事のご逝去

兄弟子であり、恩師であり、兄貴のような相原 薫先生の思い出を述べさせていただきます。

相原先生の根底にあった spirit は人間愛であったように思えます。若いときは文学青年であり読書にふけり、大学入学から卒業後も医学に没頭して自分を鍛え上げ、それまで培ってきた韓国国立テグ大学病理学孫助教授その後同主任教授・現名誉教授を仲立ちにして韓国との民間外交（韓国の電子顕微鏡技術開発に協力）をしつつ、国内では日本電子顕微鏡学会の理事を務め、電子顕微鏡による診断技術の向上を目指して多くの研究者や技術者から慕われるようになりました。世で認められるようになってからは WHO を通じて発展途上国の方々の教育に精力的に働かれました。誠に自分を律すると同時に、後輩の教育に全身全霊を傾けられたご生涯であらせられたとつくづく思い出されます。

私の記憶によれば、昭和33年群馬大学医学部を卒業後、当時東京第一病院現在の医療センターでインターンを終了後アメリカ渡航許可が下りた途端、国家試験も受けずに渡米し、4年間病理学一般はもとより電子顕微鏡技術を習得され帰国されてから医師になったようにお聞きしています。経済的には貧しくとも心の豊かさでは貧しくないと思いつつ、アメリカでのレジデント時代や、病理医としての病院生活について、頑張り抜いたことを失敗談を交えながらよく話されておりました。

昭和38年帰国直後に日本医大の矢島権八教授の病理学教室にお入りになられましたが、日本医大には電子顕微鏡は未だ無く、スーパースコープで我慢し、昭和40年に日立製作所の電子顕微鏡が入ったときは大喜びしたと伺っております。昭和40年産婦人科大学院に入学した私は、同41年から3年間矢島病理学教室で勉強させていただきましたが、始めから相原先生が直接のオーブンで、病理解剖・プローブなどにはいつも金魚の糞のように付きまっております。その頃は、日本医大の電子顕微鏡室の創世記でありまして、長年の病理解剖の臓器保存室を新たに作って頂き、移転した後の部屋を切片作

成室やオフィスに改良したのですが、孤軍奮闘していらっしゃる先生のお姿をみて、学問に対する考えの純粋さに打たれたものでした。ガラスナイフを作るため、率先してガラス屋さんからリヤカーで千駄木の坂を登って何度研究室にガラスを運んだことか。今でも先生の精力的な働き方が目に浮かぶようです。大学院も先生の絶大なご協力によって無事卒業できましたが、その間何回先生のお宅で奥様やお母様にご厄介になったことか数え切れません。ここで、今は無きお母様にも、また生来楽天的で明るい奥様にも御礼申し上げたいと存じます。

数年のブランクの後、再度矢島先生のご許可を受けて病理学の特別研究生に入れて頂き、机を貰って再び相原先生と仕事をさせて頂き始めました。始めは肺のサーファクタント・ワイルン病病原体の肝臓内での局在などをお手伝いするうちに、幅の広い先生のお知り合いを紹介して頂き、また国際電子顕微鏡学会（バンクーバー、トロント）にご一緒したりして、先生の独特の「考えてはいけない豆撒きのような囲碁」を含めて、多くのことを学ばせて頂きました。

先生のことを思い出すたびに、先生と矢島権八教授の師弟愛のことが常に思い出されます。矢島教授はものの本質を深く考え、現在の形態学では何が判り、何が判っていないかを、明らかにしようとなされ、特にご自分の腎臓や血管系についてゲーテやシラーのごとく深い洞察力を発揮され、毎週月曜日の教室会議で教室員を教育されておられました。相原先生もそのお考えに心酔なされており、学位論文は腎臓のフェジンの透過性についてであったと記憶しております。また、相原先生は矢島教授の弱点であり良さである「お酒」に纏わることも、ご自分のことのように全て受け入れてお世話されておられました。また、矢島教授は勉強の好きな弟子は分け隔てなく伸びさせようと努力なされていらっしゃいましたが、相原先生の世界に羽ばたく人類愛の行動力が、いろいろな学会活動や WHO の仕事に広がり、相原先生とご一緒に外国にも行く機会も多くなったのではないかと思います。

また、昭和38年以後日本医大の病理学の先生方を始め、私

も含めて臨床各科の後輩の先生方は、学位論文にしましても、留学の相談にしましても相原先生にお世話になった先生は、数十人に達するのではないかと思います。また電子顕微鏡室の技術者4人の方々も、お忙しい中それぞれ2年間のアメリカ留学をさせて頂いたりして、感謝していることと思います。相原先生のご推薦やご協力に応じられた先生方も、ご立派な学者になられ、日本医大を代表される方々になっておられますことは、明晰な教授とそれを補佐される相原先生のような視野の広い中堅の医師とが、自然と協力しあった時に、爆発的な人材育成の場になるような思いがいたします。

先生の思い出を語らせて頂きますと尽きることはありません。日本医科大学でご関連のあった方々、群馬大学のお知り合いの皆様、日本電子顕微鏡学会での第1回・第2回サマースクールにご協力いただいた皆様、日本電子顕微鏡学会の技術講習会にお集まりになられた皆様、肺界面活性物質学会の皆様方、WHOの協力事業で日本医大にご留学なされた韓国・中国の方々、そのほか先生から少なからず恩恵を受けた多くの皆様方と共に、先生の意志を受け継ぐよう誓いつつご冥福を祈り、合掌して終わらせていただきたく存じます。

合掌。

埼玉医科大学産婦人科学 畑 俊夫

◇内川嘉樹会員のご逝去

名古屋大学教授であられた内川嘉樹先生が2001年1月4日脳腫瘍のためにお亡くなりになりました。享年59歳でした。先生は1969年3月名古屋大学大学院工学研究科電子工学専攻博士課程を終えられた後、同大学助手、助教授を経て、1985年同大学教授に就任されました。名古屋大学教授として在任中は、電子機械工学科、電子情報工学科および新設の計算理工学専攻を御担当になられたことから窺えるように、先生の研究対象分野は大変多岐にわたっており、常に新しい観点から先駆的な研究に取り組みられ、多くの優れた研究成果をあげておられます。先生の初期の頃の研究はイオン衝撃型表面電子顕微鏡に関するもので、この研究によって名古屋大学より工学博士の学位を受けておられます。その後、ドイツのチュービンゲン大学のメーレンシュテット教授のもとで2年間にわたり、レーザー光による局所加熱型ポイントカソード電子銃の開発に従事されました。帰国後は、この研究を一層発展させると共に、高精度な電位・電界の数値計算法である境界電荷法（表面電荷法）の開発およびこの手法を用いた電子銃の特性解析に取り組みられ、この成果としてJEMに掲載の論文“Electron Optics of Point Cathode Electron Gun”により、本学会第1回論文賞を受賞しておられます。特に、先生の開発された境界電荷法は、その後、他の手法には見られない高精度な一般3次元電位・電界の高速な数値計算法として結実しております。先生は、SEMに関係する研究も広く手掛けてこられました。LSIなどのマイクロ電子デバイスを、絶縁保護膜（パシベーション膜）付きのまま非破壊的に観察

・計測する手法を研究され、この成果は半導体産業において不可欠なビームテスティング技術の基礎となっております。また、SEMの2次電子信号の検出に電子カウンティング技術を導入されましたが、この技術は、今後、SEMのみならずTEMにおいても不可欠な技術となるでしょう。さらに先生は、生物の進化のメカニズムにならった遺伝的アルゴリズムという斬新な手法を導入することにより、2次元の濃淡画像であるSEM画像から試料の本来の3次元形状を復元するための新しい手法を開発してこられました。このように、先生の御研究は電子顕微鏡学の分野に限っても多岐にわたっており、かつそれぞれが新しいアイデアに満ちた先駆的な御研究であります。

先生のご活躍は、電子顕微鏡学会の分野にとどまらず、応用物理学会、情報処理学会、日本AEM学会などにおいても、支部長、理事、評議員、副会長、国際会議実行委員長などの要職を務められました。一方、学内においても、学部学生・大学院生の教育・研究指導には精魂を傾けられ、30名を越える多数の博士号取得者を輩出し、幾多の有為な人材の育成に尽力してこられました。教育研究面においても社会的にも、益々の御活躍が期待されておりましたのに、あまりにも早すぎのご逝去でした。誠に残念でなりません。ここに会員の皆様にご逝去を報告し、謹んで御冥福をお祈りいたします。

名城大学理工学部 下山 宏

◇第57回学術講演会について

2001年5月10日(木)~12日(土)にアクロス福岡で開催される第57回学術講演会は2月20日に演題の申し込みが締め切られました。

発表要旨集は4月下旬ごろ発送する予定です。また参加登録については割り引いておりませんが、引き続き受け付けております。入金作業の都合上、送金される場合には4月20日までお願いします。それ以降は大会当日会場にて受付をお願いします。

本講演会の詳細については同封プログラムを参照してください。

◇第46回電子顕微鏡学会シンポジウムについて

2001年度シンポジウムは下記のとおり、開催されます。

なお、プログラムは電子顕微鏡36巻2号緩込にて送付の予定です。

1. テーマ：“材料のナノ・生物のナノ”
2. 日程：2001年11月14日(水)から16日(金)まで
3. 場所：物質・材料研究機構（つくば市）
4. 実行委員会
委員長：古屋一夫（物質・材料研究機構（材研機構））
副委員長：牛木辰男（新潟大学・医（生物系））
関口隆史（材研機構（材料系））
実行委員：生物系：伊藤悦朗（北海道大・理）、高田邦

昭(群馬大・医), 藤本豊士(名古屋大・医), 光岡 薫(京都大・理), 藤井智之(森林総研)

材料系: 八瀬清志(産業技術総合研究所(産総研)), 松畑洋文(産総研), 木本浩司(材研機構), 寺内正己(東北大・科研), 幾原雄一(東大・工, 材料系)

問い合わせ先: 物質・材料研究機構 関口隆史

〒305-0047 茨城県つくば市千現1-2-1

TEL: 0298-59-2750 FAX: 0298-59-2751

E-mail: em.sympto01@nims.go.jp

5. シンポジウムの趣旨

今回のシンポジウムでは“材料のナノ・生物のナノ”のテーマのもとに, 21世紀の未来技術である「ナノテクノロジー」に焦点をあてた企画をいたしました。

10億分の1メートルを取り扱うテクノロジー(ナノテクノロジー)はIT(情報技術)やバイオ, 医療, エネルギー, 環境問題などの多くの分野に関連して, その発展や問題の解決の鍵になると注目を集めています。しかし, 我々電子顕微鏡の研究者・技術者にとって, 何年も前から「ナノメートル」はすでに極めて身近な単位であり, 「ナノサイズ」は顕微鏡が一番威力を発揮する大きさであります。本シンポジウムでは「今なぜナノテクノロジーがおもしろいか」, 「21世紀にナノで何ができるか」と言う問題意識で, 電子顕微鏡に限らず「ナノ」を実現・解析する技術を取り上げて, 材料と生物の両方の分野から討論を深めたいと思います。

シンポジウムの運営では, 昨年のスタイルを引き継ぎ, ①材料と生物の共通セッション, および独自セッションを設け, ②討論時間を最大限確保した構成とします。また, ③若手や非会員の研究者に多く参加していただけるように, 参加費の面での補助を行います。そして④基本的には全員宿泊していただけるように, ポスタープレゼンテーションを懇親会とは別の日の夕方から開催することとします。場所が「つくば」でもあり, じっくり腰を据えて, しかも和気藹々と討論に集中していただければと思っております。

以上の趣旨のとおり, シンポジウムが形式にとらわれない意義深いものとなり, ひいては21世紀と電子顕微鏡学会の発展に貢献することを心より願っております。

(実行委員長: 古屋一夫)

◇第11回電子顕微鏡大学について

第11回電子顕微鏡大学(初心者と中堅のための電子顕微鏡技術セミナー)が下記要領にて開催されます。

概要: 電子顕微鏡は先端材料の研究や開発の広い領域で, 基礎研究と応用研究を問わず, 高度で有用な物質情報収集の担い手として不可欠の, 極めて有能な装置・技術に成長しています。しかし, その機能と性能を十分に活用し, 真に有用なデー

タを得るには, どうしてもある程度の基礎知識と操作の技術が要求されることも事実です。

こうした状況を踏まえ, 材料研究に従事する研究者や技術者で, これから電子顕微鏡を利用しようとする人あるいは, 始めて間もない初級・中級レベルの人を対象に, 電子顕微鏡法の基礎的技術セミナー「電子顕微鏡大学」を開講しています。電子顕微鏡による材料の評価法及び分析法を講義して好評のうちに今回で第11回目を迎えます。アンケートによる受講者の意見の迅速な反映, 好評の「質問・解答集」の送付など, 受講者講師陣一体となった「平易で役立つセミナー」となるよう情熱を傾けています。次代を担う若き力の受講をお誘いいたします。

日時: 2001年4月19日(木), 20日(金)

会場: 東京大学山上会館大会議室

(東京都文京区本郷7-3-1)

交通: 地下鉄; 千代田線 根津駅 13分
丸の内線 本郷三丁目駅 10分
南北線 東大前駅 10分

定員: 150名(定員に至った時点で締め切ります)

受講料: 電子顕微鏡学会会員および同賛助会員: 30,000円, 協賛学会会員: 45,000円, 非会員: 60,000円, 学生: 10,000円(テキスト代含む)

申込先: 「電顕大学」事務局

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学工学部マテリアル工学科

別館4F 電子顕微鏡組織学研究室

TEL, FAX: 03-5802-3383

E-mail: dendai@emc.t.u-tokyo.ac.jp

申込締切: 2001年4月10日(火)

プログラム:

<第1日目> 4月19日(木) 9:40~17:15

<イントロダクション>

1. 電子顕微鏡のハードウェア

—基本構造のやさしい解説—

及川哲夫(日本電子)

<電子顕微鏡特論(1) 構造解析>

2. 電子回折法—回折像の原理と構造情報—

田中通義(東北大・科研)

3. 明視野像法, 暗視野像法—材料組織と格子欠陥の詳細な観察法—

坂 公恭(名大・工)

4. 原子構造の解析

1) 高分解能電顕法の基礎—格子像原理のわかりやすい解説—

田中信夫(名大・工)

2) 高分解能電顕法の実際—格子像観察で守るべき技術的ポイント—

市野瀬英喜(東大・工)

<第2日目> 4月20日(金) 9:30~17:50

〈電子顕微鏡特論 (2) 局所分析〉

5. エネルギー分散型X線分光法 (EDS) —元素分析の原理と実際— 板東義雄 (無機材研)
6. 電子エネルギー損失分光法 (EELS) —電子構造の情報を捉える— 倉田博基 (原子力研)
7. 試料作製法—最適試料作成法と新手法— 上田 修 (富士通研究所)

〈電子顕微鏡特論 (3) 表面分析〉

8. 表面のマイクロ構造
走査電顕 (SEM・EPMA) —SEM 像と元素分析— 永田文男 (日立サイエンス)
9. 表面の原子・電子構造
走査型トンネル顕微鏡 (STM・AFM) —原理と技術的ポイント— 富取正彦 (北陸先端科技大)

◇SCAN TECH2001 のお知らせ

SCAN TECH 実行委員会

SCAN TECH は、医生物、金属、半導体、高分子、食品、その他の試料、あるいは SEM 本体、周辺機器に関わる研究者が一堂に集まり、講師、参加者、実行委員を交えて納得のいく討論をする場です。今年の SCAN TECH2001 では、十分ディスカッションに時間がとれるよう、久しぶりに1泊2日を企画しました。

1日目は、材料科学分野、医学生物学分野に共通するセッションを設け、2日目は材料科学、医学生物学の二つの分野に分かれて突っ込んだ議論を行う予定です。また、1日目の夜は、講師と直接、あるいは参加者同士のディスカッションができるような時間を作っております。

開催期日 (予定) : 2001年8月31日 (金)、9月1日 (土)

場所 (予定) : 群馬県伊香保温泉

詳細な内容については、SEM 応用技術研究部会のホームページに逐次掲載いたしますが、直接 E-mail あるいは郵送による連絡をご希望の方は下記連絡先へお問い合わせ下さい。なお、SCAN TECH'99、SCAN TECH2000 のご案内をお送りした方には今年もダイレクトメールを差上げます。発送時期は6月初めを予定しています。

SEM 応用技術研究部会

URL: <http://homepage1.nifty.com/scantech/>

連絡先: 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1

帝京大学医学部中央電子顕微鏡室

FAX: 03-3961-2527

E-mail: ich@med.teikyo-u.ac.jp

◇第46回学会賞 (瀬藤賞) について

2001年度学会賞 (瀬藤賞) は9件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、第3回理事会において、以下の会員に授与が決定しました (選考委員については10・11頁第2回理事会議事要旨参照)。なお、本年度学術講演会において受賞

講演が行われます。万障お繰り合わせのうえ、ご来聴くださいますようお願い申し上げます。

- A. 顕微法基礎部門: 近藤行人「新しい顕微機能を組み込んだ、高分解能・超高真空電子顕微鏡の開発」
- A. 顕微法基礎部門: 谷城康真「超高真空・反射電子顕微鏡観察技法の開発と、清浄表面への原子吸着機構への応用」
- B. 応用研究 (生物) 部門: 瀬口春道「多彩な電顕組織化学技法を駆使した細胞膜機能の解明」
- C. 応用研究 (非生物) 部門: 松村 晶「合金、無機化合物の部分的規則状態解析のための定量電子回折技法の確立」

◇第16回論文賞について

2001年度論文賞は5件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、第3回理事会において、以下の論文に授与が決定しました (選考委員については11頁第2回理事会議事要旨参照)。

- a. 顕微法基礎部門: The structure of MCM-48 determined by electron crystallography
JEM 48 (6) : 795-798, (1999).
Anna Carlsson, Mizue Kaneda, Yasuhiro Sakamoto, Osamu Terasaki, Ryong Ryoo, Sang Hoon Joo

◇第6回技術功労賞について

2001年度技術功労賞は4件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、第3回理事会において、以下の会員に授与が決定しました (選考委員については11頁第2回理事会議事要旨参照)。

- ②生物系応用研究部門: 北 重夫
「電子顕微鏡試料作製技術及びその器具の開発と改良」
- ③物質系応用研究部門: 五十嵐芳夫
「鉄鋼材料の微細組織観察技術の開発とその応用」

◇第2回奨励賞について

2001年度奨励賞は5件の推薦があり、選考委員会からの答申のもと、第3回理事会において、以下の会員に授与が決定しました (選考委員については11頁第2回理事会議事要旨参照)。

- I. 顕微法基礎部門: 渡辺万三志
「分析電子顕微鏡—EDS 法による定量濃度・絶対膜厚マッピングの開発に関する研究」
- II. 生物系応用研究部門: 星 和人
「エネルギーフィルター透過型電子顕微鏡を用いた生物学的石灰化に関する微細形態学的研究」
- III. 物質系応用研究部門: 木本浩司
「エネルギーフィルター電子顕微鏡法による先端材料の微細構造評価に関する研究」

◇2000年度電子顕微鏡技術認定者

本年度の技術認定試験は2000年10月14日(土)、東京・大阪・福岡の3会場で実施され、結果は次の通りです。

- 1) 一般生物
受験者20名 合格者14名 (合格率70%)
- 2) 特殊技術Ⅰ
受験者3名 合格者3名 (合格率100%)
- 3) 特殊技術Ⅱ
受験者1名 合格者1名 (合格率100%)
- 4) 特殊技術Ⅲ
受験者2名 合格者2名 (合格率100%)
- 5) 特殊技術Ⅳ
受験者1名 合格者1名 (合格率100%)

一般技術認定者および特殊技術合格者・認定者(Ⅰ～Ⅳの試験合格者)は次の通りです。

{一般技術認定者(合格者)}

上原みゆき(882), 関知之(883), 高岡勝之(884),
長坂美歩(885), 中野知之(886), 中山章子(887),
藤村久子(888), 矢野哲也(889), 詫間真苗美(890),
田保徹(891), 續木雅子(892), 山尾規子(893),
河野恵(894), 大洞大典(895)

{特殊技術Ⅰ合格者}

鈴木正則, 臼見憲司, 高木孝士

{特殊技術Ⅱ合格者}

鈴木正則

{特殊技術Ⅲ合格者}

儘田明央, 田中里美

{特殊技術認定者(特殊技術Ⅳ合格者)}

柴主敏行(85)

注: ()内は認定登録番号

◇第10回電子顕微鏡大学決算報告

2000年4月19・20日に東京大学で行われた電子顕微鏡大学の収支決算は以下のとおりです。

〈収入の部〉		(単位:円)
会 員	@30,000×14	420,000
協賛会員	@45,000×18	810,000
賛助会員	@30,000×7	210,000
非 会 員	@60,000×6	360,000
学 生	@10,000×31	310,000
テキスト代	@5,000×2	10,000
合 計		2,120,000
〈支出の部〉		(単位:円)
文 具 代		32,722
会 場 代		92,700
通 信 費		121,620
資料調査費		500,000

アルバイト	180,000
講師交通費	138,000
事務費	50,000
合 計	1,115,042

学会への繰入金: 1,004,958円

◇第56回学術講演会報告

5月17～19日に北とびあで行われた第56回学術講演会の収支決算等は以下のとおりです(参加者:949名)。

〈収入の部〉		(単位:円)
科 目		決 算
1. 参加費		[4,499,000]
前納会員	360名×@5,000	1,800,000
臨時	67名×@8,000	536,000
当日会員	218名×@6,000	1,308,000
臨時	46名×@9,000	414,000
1日参加	147名×@3,000	441,000
無料参加	111名	0
	(名誉会員・非会員指名演者・学振141委員)	
2. 日本学術振興会補助金		[300,000]
3. 発表要旨集		[351,900]
事前	391冊×@3,000×0.3	351,900
4. 懇親会参加費		[1,930,000]
前納会員	165名×@7,000	1,155,000
臨時	10名×@8,000	80,000
当日会員	43名×@8,000	344,000
臨時	39名×@9,000	351,000
5. 広告料		[890,000]
表2	1件×@80,000	80,000
表3	1件×@70,000	70,000
表4	1件×@90,000	90,000
本文	13件×@50,000	650,000
6. 機器展示料		[9,000,000]
大小間	2件×@1,500,000	3,000,000
中小間	1件×@900,000	900,000
小小間	1件×@300,000	300,000
パッケージ	32件×@150,000	4,800,000
7. 冠ワークショップ		[632,000]
	13件×@50,000	650,000
	参加費との相殺	-18,000
8. 第56回学術講演会学会本部補助金		[1,500,000]
9. 当日各種委員会費		[516,000]
10. 雑収入		[17,096]
合 計		19,635,996
〈支出の部〉		(単位:円)
科 目		決 算

1. 参加費・予稿集代受付費	[470,863]
2. プログラム編成関係費	[597,910]
3. 当日運営費	[10,020,458]
1) 会場費	1,421,930
2) 付帯設備費	202,100
3) 持込み備品費	2,407,606
4) ポスター会場設営費	4,000
5) 看板製作費	283,500
6) 機器展示会場設営費	2,864,325
7) 運営人件費	2,474,220
8) 備品予稿集運送費	101,325
9) 飲料サービス費	77,049
10) 雑費・予備費	184,403
4. 業務委託費	[2,114,339]
5. 懇親会費	[2,164,816]
6. 写真コンクール	[18,000]
7. 冠ワークショップ講演謝金	[60,000]
8. 各種委員会費	[490,574]
9. 実行委員会・プログラム委員会	[474,636]
10. 雑費	[138,745]
11. 学会本部へ	[3,085,655]
合計	19,635,996

発表演題数:

口演発表: 399 (材料系240, 生物系159)
 ポスター発表: 68 (材料系45, 生物系23)
 写真コンクール: 14

◇第11回電子顕微鏡サマースクール決算報告

8月23～25日に山梨医科大学で行われた第11回サマースクールには51名の受講者がありました。収支決算は以下のとおりです。

〈収入の部〉		(単位: 円)
(i) 参加費		1,540,000
会員・共催学会員	21名×@30,000	630,000
非会員	11名×@40,000	440,000
協賛学会員	6名×@35,000	210,000
学生	13名×@20,000	260,000
(ii) 協賛金		1,910,000
(iii) 広告料		640,000
(iv) 機器展示料		80,000
(v) 利息		272
合計		4,170,272
〈支出の部〉		(単位: 円)
パンフレット・ポスター・封筒印刷費		234,465
パンフレット・ポスター等郵送費		300,910
プログラム印刷費		431,550
テキスト印刷製本費		681,030

プログラム・テキスト郵送費	38,480
会場案内看板作成費	51,292
文房具・コピー費等	171,417
山梨医大～甲府駅バス手配費	192,360
茶菓サービス費	60,478
講師, 実行委員, 参加者閉校式等会議費	160,000
懇親会費	515,710
会議費(実行委員会)	9,100
会場案内板等準備会議費	8,200
講師旅費	330,000
講師宿泊費	33,390
事務アルバイト費(1月～11月)	388,500
参加記念品代	261,477
実技講習会用消耗品費	262,441
返金時の手数料	630
次回開催校宅急便料等	3,280
学会への繰入金	35,562
合計	4,170,272

◇第45回シンポジウム決算報告

2000年11月21～22日に岡崎コンファレンスセンターにおいて行われた第45回シンポジウムは104名の参加者を得て成功裏に終了しました。収支決算は以下のとおりです。

〈収入の部〉		(単位: 円)
本部補助金		0
参加費 会員	4000×34	412,000
	5000×30	
臨時会員	5000×12	
	6000×9	
学生	0×7	
	1000×12	
懇親会費 会員	4000×29	376,000
	5000×27	
臨時会員	5000×7	
	6000×14	
学生	0×7	
	1000×6	
広告展示料		1,743,000
分子研旅費助成		346,900
生理研旅費助成		397,860
その他の助成金(名大・中電・大幸)		490,000
雑収入(版下作製費)		8,400
合計		3,774,160
〈支出の部〉		(単位: 円)
看板代		173,250
講演者旅費		633,565
懇親会費		689,890

印刷費	323,400
事務・通信費	321,838
コーヒースervice・お茶菓子	35,897
人件費(アルバイト代・弁当代)	191,215
雑費	5,105
学会繰入金	1,400,000
合計	3,774,160

問い合わせ先：日本表面科学会
 TEL: 03-3812-0266
 E-mail: shomu@sss.org

◇ホームページについて

学会ではホームページを開設しています。URL は以下のとおりです。会員の皆様のご意見等をお待ちしております。

URL: <http://www.bcasj.or.jp/jsem/>

◇学会の刊行物について

日本電子顕微鏡学会刊行物は日本医科大学で保管され、閲覧できるようになっています。閲覧を希望される場合は訪問日時などを予め以下へご連絡ください。

〒113-8602 文京区千駄木1-1-5

日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設(広畑泰久)

FAX: 03-5685-5517

E-mail: hirohata@nms.ac.jp

また、JEM 誌、電子顕微鏡誌、学術講演会・シンポジウム要旨集は以下の通り頒布しています。

JEM 誌(46巻以降)：オックスフォード・ジャーナル

〒113-0023 文京区向丘1-1-17-5F

TEL: 03-3813-1461 FAX: 03-3818-1522

JEM 誌(45巻以前)、電子顕微鏡誌、学術講演会・シンポジウム要旨集：(財)日本学会事務センター事業部

〒113-8622 文京区本駒込5-16-9

TEL: 03-5814-5811 FAX: 03-5814-5822

◇The 15th International Congress on Electron Microscopy について

第15回国際電子顕微鏡学会議が2002年9月1～6日にダーバン(南アフリカ)で開催されます。詳細は <http://www.icem15.com/> をご覧下さい。

◇関係学協会のお知らせ

1) 第26回組織細胞化学講習会

開催日：2001年7月25～27日

場 所：京都都会館、京都大学構内

問い合わせ先：日本組織細胞化学会事務局

TEL: 075-415-3661

E-mail: jshc@nacos.com

2) 第31回表面科学基礎講座

開催日：2001年6月20～22日

場 所：総評会館(東京都千代田区)

◇基金等に係る内規について

平成12年度第2回理事会(2000年11月21日)において以下の内規が決定・改正されました(第2回理事会議事要旨参照)

① 「会員名簿ならびに名簿刊行事業積立預金に関する内規」

1. 会員の知識交換ならびに会員相互間の連絡提携のため、会員名簿を発刊する。
2. 会員名簿を発刊するため、名簿刊行事業積立預金を設ける。
3. 会員名簿発刊に必要な経費を名簿刊行事業積立預金より取り崩し、これに充当する。
4. 名簿刊行事業積立預金の充当ならびに取り崩しについては、理事会の承認を必要とする。また、総会においてこれを報告しなければならない。

② 「国際会議関係預金に関する内規」

1. 日本において、国際電子顕微鏡学会連合(IFSEM)に関連する国際会議を日本で開催するため、本預金を設ける。
2. 本邦において同会議開催が決まった時(立候補)には、本預金を取り崩し、その目的においてのみこれを使用できる。
3. 本預金の充当ならびに取り崩しについては、理事会の承認を必要とする。また、総会においてこれを報告しなければならない。

③ 「国際会議積立預金に関する内規」

1. 第11回国際電子顕微鏡学会議により生じた剰余金をもとに本預金を設ける。
2. 電子顕微鏡学の進歩発展を図り、もって学術、文化の発展に寄与する国際会議に対して、本預金を取り崩し、これを補助することができる。
3. 上述の国際会議とは、理事会において審議し、これを適当と認めた会議に限る。補助を受けた会議は、終了後、理事会に報告書を提出しなければならない。
4. 本預金の充当ならびに取り崩しについては、事前に理事会の承認を必要とする。また、総会においてこれを報告しなければならない。

④ 「60周年記念事業積立預金に関する内規」

1. 60周年記念事業を行うため、60周年記念事業積立預金を設ける。
2. 本預金充当ならびに取り崩しについては、事前に理事会の承認を経なければならない。また、総会においてこれを報告しなければならない。

⑤ 「学術振興積立預金に関する内規」

1. 顕微鏡科学ならびに関連する学術分野の継続的かつ新たな発展と振興を図ることによって、学会の活性

化ならびに発展を促進するため、本預金を設ける。

2. 学術運営委員会・理事会に申請のあった事業等のうち、上述の目的に合致し、なお且つ、同委員会・理事会がこれを適当と認めた事業に対し、本預金を取り崩し、拠出することができる。本預金を取り崩し、拠出できる事業は以下のとおりとする。
 - 1) 分科会、研究部会
 - 2) 学術講演会、シンポジウム
 - 3) 宿題シンポジウム、連合シンポジウム。
 - 4) 啓蒙的・教育的見地からの学術活動（会員、会員外を対象としたゼミナール・講習会・見学会）
 - 5) 印刷物などの出版の企画・発行
 - 6) 学会の発展に必要な企画および境界領域の研究促進
3. 補助を受けた事業は、終了後、学術運営委員会・理事会に報告書を提出しなければならない。また、本事業により得られた研究成果等は、学術講演会やシンポジウム、その他の学会諸行事の中で広く会員に公表すると共に、可能な限り JEM 誌、和文誌に投稿・寄稿してその成果を広く会員に還元しなければならない。
4. 本事業預金充当ならびに取り崩しについては、事前に理事会の承認を必要とする。また、総会においてこれを報告しなければならない。

⑥ 「電子顕微鏡技術認定制度規則」

(下線箇所を改正(追加))

第5条 登録

技術認定試験に合格し、所定の登録料を納付した者は、一般または特殊技術を有するものとして、本学会に登録し、会長はこれに技術認定証を授与する(一般技術認定証を授与したものを「電子顕微鏡2級技士」、特殊技術認定証を授与したものを「電子顕微鏡1級技士」とする)。

ただし、該当者は正会員でなければならない。

◇平成12年度第2回理事会議事要旨

日時：平成12年11月21日(火) 10:00~12:30

会場：岡崎国立共同研究機構コンファレンスセンター

出席者：(理事) 石川春律、飯島澄男、牛木辰男、古屋一夫、西山彌生、森博太郎、砂子沢成人、長船哲齋、藤吉好則、白倉治郎、田中信夫、市野瀬英喜、畑 俊夫、(監事) 坂 公恭、高田邦昭

委任状出席：(理事) 井上芳郎

オブザーバー：板東義雄(第56回学術講演会実行委員長・第10回電頭大学企画委員長)、中村桂一郎(第57回学術講演会実行委員会代表幹事)、大野伸一(第11回電子顕微鏡サマースクール実行委員長)、永山在明(九州支部長)、平井圭一(2004年 APEM

委員長)

【報告】

1. 庶務報告：牛木常務理事より、第1回理事会以降の会務について報告が行われた。また、第1回応用物理学協会間「日本技術者教育認定制度」連絡協議会(9月20日：機械振興会館)について古屋常務理事より報告があった。同協議会への対応については、常務理事会一任とすることとした。なお、平成13年度日本学会事務センターとの業務契約について10月7日の常務理事会で審議し、これを取り交わした旨報告があった。

2. 会計報告：西山常務理事より、10月末日現在の会計状況が配布資料に基づき報告された。会員数減少により会費収入の落ち込みが懸念される旨補足説明があった。

3. 欧文誌編集委員会報告

4. 和文誌編集委員会報告：牛木常務理事より、和文誌編集進捗状況について報告が行われた。また、36巻1号より紙質を変えることによる送料の軽減化、ならびに、37巻1号より頁数の削減による製作費・送料等の削減を行っていく旨説明が併せて行われた。

5. 技術認定委員会報告：長船委員長より、2000年10月14日に行われた試験概要が報告された。また、本年度より認定証を授与する際にバッチを配布する旨説明があり、それが回覧された。

6. 出版委員会報告：高田出版委員長より、「出版ガイドライン」を作成中である旨報告があった。

7. 学術運営委員会報告：石川委員長より、理事会に先立ち行われた学術運営委員会・研究部会責任者合同会議の報告が行われた。なお、各研究部会が他学会へ協賛等の依頼を行うにあたり、判断は常務理事会と連絡をとり対処していくこととした。

8. 支部報告：本年度各支部事業の中間報告が行われた。

9. 第57回学術講演会準備状況報告：中村代表幹事より、標記講演会の準備状況が配布資料に基づき報告された。なお、以下の変更点について申し出があり、承認された。

① 「学術講演会申込方法の件」

- a) オンライン演題申込を試行する。
- b) オンライン登録を試行する。
- c) 非会員も前年度に続き、演題応募を受け付ける。

② 「学術講演会発表要旨集の件」

- a) 抄録を従来の半分(1頁から半頁)にする。
- b) 英文抄録をなくし、原稿は日本語または英語のいずれかで提出してもらう。
- c) 要旨集については実行委員会側の都合の良い印刷会社にて制作する。ただし、和文誌のサプリメントという体裁はとる。

10. 日本臨床電子顕微鏡学会報告

11. 2004年 APEM に関する報告：平井委員長より、8th APEM の金沢開催決定までの経緯が報告された。また、以

下の説明があり、了承された。なお、組織委員会を立ち上げるための準備委員会（任期平成13年度総会まで）設置について承認され、以下の会員を委嘱することとした。

I. 8th-APEM 準備委員会

委員長：平井圭一（8th-APEM 会長）

委員：牛木辰男，西山弥生，藤吉好則，瀬口春道，畑俊夫，長村義之，古屋一夫，森博太郎，田中信夫，板東義雄，高橋平七郎，坂 公恭

アドバイザー：塩尻 詢，石川春律，飯島澄男

II. 報告概要

1) 開催概要

- 開催期日：2004年6月7日（月）～11日（金）
- 開催場所：金沢市昭和町・本町（石川県立音楽堂，ホテル日航金沢，市民芸術ホール）
- 2004年学術講演会と合同とし，全体を国際会議とする。

2) 8th APEM 会長と IFSEM 会長，CAPSEM 会長，CAPSEM 事務局長との間で合意書がとり交された。

主な内容は次の通り。

- 2001年6月までに，
 - International Scientific Advisory Board の人選（人選の際，各国の会員学会の提言を考慮に入れる）
 - 学会開催のアウトライン（学術的内容説明，会場，予算）を IFSEM，CAPSEM に提示し，意見を聞く。
 - 2002年6月までに，
 - 基調講演者と座長の人選提案（人選の際，International Scientific Advisory Board と密接に協力すること）
 - この時点で最新の予算案（登録費，展示費の見積もりを含む）を IFSEM，CAPSEM に提示し，助言を聞く。
 - 参加者一人につき 5US\$ を CAPSEM に支払う。
 - 2005年6月までに，IFSEM，CAPSEM に簡条別に記した最終の会計報告書を提出する。
- 3) 協賛金募集：2000年度から準備のための業務を開始し，そのための経費捻出のため，企業から協賛金を募集することにした。

企業からの協賛金の取り扱い：会計を明朗化するために，すべての協賛金を特定公益法人金沢医科大学への寄付とし，大学内に学術振興基金「第8回アジア太平洋電子顕微鏡会議開催」を設けることにした。

12. 第8回材料科学フロンティア電子顕微鏡法国際会議に関する報告：本会協賛の標記国際会議が成功裏に終了した

旨報告があった。

13. 英文ホームページに関する報告：英文ホームページを新たに開設した旨報告があった。

【議題】

1. 新役員・評議員選出の件：「各支部からの評議員・役員推薦割当数」，「役員選出についての理事会申し合わせ」について承認された。更に「役員候補者推薦委員会・役員選挙管理委員会に関する申し合わせ」について協議し，決定した。続いて，理事の互選により，役員候補者推薦委員が選出された。また，選挙管理委員長には西山常務理事が選出され，他の選挙管理委員については西山委員長へ一任とした。

「役員候補者推薦委員：石川，牛木，飯島，古屋，森，田中，藤吉，白倉，弘津，長船，市野瀬，および各支部長または支部長が指名する会員」

「平成13・14年度役員・評議員候補者推薦割当数」

	北海道	関東	関西	九州	理事会
会長候補：	※	※	※	※	※
理事：	1	6	5	1	2
監事：	—	1	1	—	
評議員：	15	113	72	25	

※「平成13年度以降の役員選出についての理事会申し合わせ（①参照）」

「平成13年度以降の役員選出についての理事会申し合わせ」

① 複数の会長候補者推薦にあたり，候補者は生物系あるいは非生物系というそれぞれの分野から交互に選ばれることが望ましい。したがって，各支部および理事会からの推薦においては，過去の会長の専門分野を考慮して，全国的な視野で推薦する。（支部からの推薦については，会長候補者は推薦母体の支部会員である必要はない）

※平成13・14年度会長候補者は非生物系が望ましい。

② 副会長および4名の常務理事については，正会員により信任，通常総会で選任された理事の中から互選により選出されるが，この選出に当たっては，会長のリーダーシップを保障することとする。ただし，副会長においては会長の専門分野（生物系・非生物系）と異なることが望ましい。

③ 庶務および会計担当常務理事においても，それぞれ複数の候補者においては，その専門分野（生物系・非生物系）に偏りがないように互選することとする。

④ 欧文誌・和文誌編集委員長については，常務理事会の構成員とし，理事会にはオブザーバーとして出席する。

⑤ 関連学協会から理事会へのオブザーバー出席を認める。

「役員候補者推薦委員会に関する申し合わせ」

① 役員候補者推薦委員会は，前会長，理事10名（互選）および各支部代表（支部長，または支部長が指名する会員）の計15名をあてる。ただし，会長候補者に選ばれた場合はその資格を失う。

② 役員候補者推薦委員は，役員候補者推薦委員会を組織

し、委員長は委員の中から互選する。

③ 委員の任期は2年とする。

④ 役員候補者推薦委員会は正会員、各支部および理事会から推薦された候補者につき審議し、無記名投票により複数の会長候補者、理事および監事候補者を内定し、会長に報告する。

⑤ 推薦委員会における選挙は選挙管理委員会が管理・執行する。

「役員選挙管理委員会に関する申し合わせ」

① 選挙管理委員は会長が正会員中から5名を委嘱する。

② 選挙管理委員は選挙管理委員会を組織し、委員長は委員の中から互選する。

③ 委員の任期は2年とする。

④ 役員選挙管理委員会は、会長候補者については正会員による直接投票を、会長候補者を除く理事および監事候補者については正会員による信任投票を管理・執行する。また、役員候補者推薦委員会における投票も管理・執行する。

2. 第46回シンポジウムの件：常務理事会案として第46回シンポジウム実行委員長に古屋一夫会員を推薦する旨提案があり、承認され、委嘱することとした。

3. 第58回学術講演会の件：常務理事会案として第58回学術講演会実行委員長に森博太郎会員を推薦する旨提案があり、承認され、委嘱することとした。なお、森常務理事より標記講演会を平成14年5月15日(水)～17日(金)に大阪国際交流センターで行うべく準備を進めている旨説明があった。

4. 第10回電子顕微鏡大学決算および第11回電子顕微鏡大学の件：第10回電子顕微鏡大学決算が承認された。また、第11回同大学について準備状況が説明された(5頁参照)。

5. 第56回学術講演会決算の件：承認(5・6頁参照)。

6. 第11回サマースクール決算および第12回サマースクールの件：第11回電子顕微鏡サマースクール決算が承認された。また、第12回実行委員長に佐藤洋一会員を推薦する旨、提案があり、承認し、委嘱することとした。

7. 平成13年度研究部会・分科会の件：「①平成13年度分科会・研究部会設置について、②分科会・研究部会申請要項・用紙について」承認された。なお、平成13年度分科会・研究部会設置の概要は以下のとおり。

- 1) 申請にあたっては研究部会はトピックス・ad hoc的なものとし、分科会は継続・普遍・基盤的なものとする。
- 2) 3年を過ぎる研究部会については申請書と共に3年間の活動状況報告書・自己点検評価の結果も提出する。
- 3) 補助金は総額約100万円とする。
- 4) 平成13年度は数件(上限は5)の研究部会を設置する。
- 5) 平成13年度設置する分科会は以下の6件とする。
 - ①ニューマイクロスコープ分科会、②分析電子顕微

鏡分科会、③高分解能電子顕微鏡分科会、④走査電子顕微鏡分科会、⑤生体構造解析分科会、⑥デバイス解析分科会

8. 学会財政に関する件：逼迫している財政状況を打開するため常務理事会で検討した基本方針が説明された。続いて、平成13年度予算に係る各事業・管理費への会費収入配分案が提案され、承認された。

9. 内部留保に係る内規の件：「公益事業を実施するために有している基金」(積立預金等)について内部規程を作成するよう文部省より連絡があった旨、報告があった。次いで、常務理事会で検討した規程案が提示され、承認された(7頁参照)。

10. 技術認定試験合格者呼称に関する件：長船委員長より、検討経過報告があった。続いて以下の提案が行われ、これが承認された。なお、技術士等の呼称を使うことは、法律上、適当ではないことから以下の呼称になった旨補足説明された。

・一般技術認定証を授与したものは、「電子顕微鏡2級技士」とする。

・特殊技術認定証を授与したものは、「電子顕微鏡1級技士」とする。

上記により、「電子顕微鏡技術認定制度規則」第5条を改正する(8頁参照)。

11. JEM 誌の件：オックスフォード大学出版と学会との契約について、常務理事会・編集委員会での検討経過が説明され、同出版との契約更新ならびに契約概要について提案があり、承認された。

① 契約期間は3年とする。

② 年間を630ページとし、それ以上の増ページ(960ページまで)に関し、1ページにつき10,000円とする。

③ 編集オフィス費はOUPの負担とする。

④ 紛争裁定は日本法でも可能とする。

⑤ 年間700万円で2,700部の印刷版をOUPより買い取り、学会より会員全員に配布する(送料は学会負担で配布)。また、電子版へアクセス可能とする。

12. 学会名称の件：今年度中に会員の意見を集め、次回総会に議決案を提出する必要がある旨説明があり、スケジュール案が提示された。また、会員へ意見を求めるための基礎資料として、「会員推移データ」が提示され、意見の交換が行われた。

13. 2006年 ICEM の件：ICEM 開催立候補について、各国の状況等についての情報交換が行われた。

14. 2001年度各賞選考委員に関する件：2001年度学会賞(瀬藤賞)、論文賞、技術功労賞、奨励賞の各候補者・論文について報告が行われた。続いて、各賞選考委員について、協議の結果、以下の会員を委嘱することとした(*:主査)。

1) 学会賞(瀬藤賞)選考委員

「委員長兼顕微法基礎主査」平野 寛

「応用研究(生物)」山科正平*, 長村義之, 和気健二郎
「応用研究(非生物)」坂 公恭*, 竹田精治, 松井良夫

2) 論文賞選考委員

「委員長兼顕微法基礎主査」外村 彰

「応用研究(生物)」近藤尚武*, 井上金治, 澤田 元

「応用研究(非生物)」外村 彰*, 丹司敬義, 板東義雄

3) 技術功労賞選考委員

「委員長」大隅正子

「生物系応用研究」大隅正子*, 酒井俊男, 二重作 豊

「物質系応用研究」寺崎 治*, 遠藤久満, 黒田光太郎

4) 奨励賞選考委員

「委員長兼顕微法基礎主査主査」小林隆史

「生物系応用研究」井出千束*, 佐藤洋一, 鈴木季直

「物質系応用研究」小林隆史*, 進藤大輔, 山本直紀

15. 入退会の件: 2000年4月~9月入退会の承認。

入会: 正会員38名, 学生15

退会: 正会員31名, 学生1

除名: 正会員40名

16. 解剖学研連への補助金の件: 解剖学研連から第16回(2000年度)形態科学シンポジウムに係る共催依頼があり, 協議の結果, 本会ガイドラインに添い, 30,000円の補助金を拠出することとした。

17. 協賛依頼の件: 19件の協賛・掲載等を了承した。

◇平成12年度第3回理事会議事要旨

日時: 平成13年1月20日(土) 14:00~16:00

会場: 八重洲倶楽部

出席者: (理事) 石川春律, 飯島澄男, 牛木辰男, 古屋一夫, 西山彌生, 森博太郎, 砂子沢成人, 長船哲齊, 白倉治郎, 村田長芳, 弘津禎彦, 市野瀬英喜, 畑俊夫, (監事) 坂 公恭

委任状出席: (理事) 井上芳郎, 藤吉好則, 田中信夫, (監事) 高田邦昭

【報告】

1. 庶務報告: 牛木常務理事より, 第2回理事会以降の会務について報告が行われた。また, 日本医科大学中央電子顕微鏡室で保管している会誌等については同大学図書館へ移管することとなった旨併せて報告された。また, 省庁再編により所管官庁名が文部省より文部科学省に変更となり, これに伴い, 定款上の文言を変更するよう所管官庁から連絡があり, 変更することとした。

2. 会計報告: 西山常務理事より, 収支の状況について配布資料に基づき報告が行われた。なお, 会員数の減少により, 会費収入の減少が懸念される旨説明があった。

3. 欧文誌編集委員会報告: 「①編集進捗状況 ②平成13年度科研費申請を行った ③印刷所が2001年より中西印刷に変わる。④論文の投稿・引用依頼」について説明・報告があった。

4. 和文誌編集委員会報告

5. 日本臨床電子顕微鏡学会報告: 同学会では和文誌が廃刊になること, また, それに伴い, 同誌に繰込みで掲載していた本会技術認定試験案内については, 今後, 同学会ホームページで同会会員他へ周知を行っていくことになる旨報告があった。

6. 第57回学術講演会準備状況報告: 準備状況について報告があった。インターネットによる発表要旨のオンライン登録が開始され, 参加登録受付についてもインターネット上で登録が開始できる見込みである旨説明があった。

7. 第46回シンポジウム準備状況報告

8. 金属工学研連に係る報告: 学術会議のホームページと本会ホームページとをリンクすることにより, 学術会議関連の情報を周知していくこととした。

9. JEM 契約に係る報告: 先の理事会で承認された新契約概要に添い OUP において現在契約書を作成中であり, これが学会に届いた時点で担当理事確認の後, 会長が署名, 契約が成立する旨報告があった。なお, 契約は平成13年1月1日に遡り発効されること, ならびに会誌発送は本年より学会の経費にて行うこと, その業務については, 日本学会事務センターに委託することが説明され, 承認された。

【議題】

1. 平成13・14年度役員候補者選出・選挙の件: 各支部・理事より推薦された標記候補者について, 1月20日に役員候補者推薦委員会が開催され, その審議結果が石川委員長より, 報告された。審議の後, 委員会の推薦どおり, 以下の会員を標記候補者として承認し, 評議員等へ伺いをたてた後, 正会員による選挙を行うこととした。

会長候補: 飯島澄男, 志水隆一, 外村 彰

理事候補: 脇田 稔, 石川 晃, 大野伸一, 長船哲齊, 倉田博基, 鈴木季直, 古屋一夫, 石村和敬, 井出千束, 後藤俊幸, 田中信夫, 森博太郎, 猪口哲夫

監事候補: 高田邦昭, 内山安男

2. 平成13・14年度評議員候補者選出の件: 各支部から推薦された候補者(225名)について承認した。また, 理事会として推薦する評議員について討議が行われ, 各役員が以下の項目で該当する研究者を推薦し, 審議することとした。

(1) 会長経験の顧問

(2) 現役員・次期役員候補者

(3) 研究部会・分科会世話人候補者(申請者)

(4) 講演会等の実行委員長

(5) 期待される研究分野・研究グループのリーダー

(6) ニューマイクロスコープの分野で今後, 学会での活動が望まれる研究者

また, 選挙管理委員の推薦があり, 承認された。

選挙管理委員会: 西山彌生(委員長), 秋元義弘, 岩本知弘, 江原友子, 小暮敏博

3. 第45回シンポジウム決算の件：標記シンポジウムについての総括ならびに決算について説明があり、承認された。また、提示された問題点等を次期実行委員会へ申し送ることとした。

4. 第46回学会賞（瀬藤賞）受賞者決定の件：受賞者の決定。（受賞者4頁参照）。また、選考委員選出について、支部のバランスについても配慮するよう意見が出され、各賞の推薦方法等と併せて検討していくこととした。

5. 第16回論文賞授賞論文決定の件：授賞論文の決定（授賞論文については4頁参照）。また、論文賞選考委員会から「論文賞募集にあたっては瀬藤賞受賞論文ではないこと、及び英文和文にかかわらずオリジナリティを重視すること」の付帯意見が出され、来年の募集にあたってはこれを考慮していくこととした。

6. 第6回技術功労賞受賞者決定の件：受賞者の決定（受賞者については4頁参照）。

7. 第2回奨励賞受賞者決定の件：受賞者の決定（受賞者については4頁参照）。

8. JEM 編集委員会委員の件：継続審議

9. 平成13年度分科会・研究部会の件（学術運営委員会報告会）：継続審議

10. 名誉会員推薦の件：保坂元会長が70歳になり内規第

6条の必要要件を満たすことから平成13年度総会に推薦すべく準備を進めていくこととした。

11. 科学研究費審査委員推薦の件：本会からも審査委員を推薦できるよう同研連へ働きかけを行うこととした。また、本会が複合領域の学会であることから「①学術会議登録については既存の登録研連ばかりでなく、他の研連も考えること、②その場合に以前登録していた研連でも継続して活動できるよう検討する」との意見が出され、継続審議事項とした。

12. 学会名称の件：平成13年度総会で学会名称に係る決議を行うため会員意向調査を行うこと、およびその調査案について、一部修正の後、承認した。新学会名称については、調査結果をもとに次回理事会で審議を行い、総会に提案することとした。

13. 国際会議の件：2006年 ICEM 開催立候補について、各国の状況等について情報の交換が行われた。

14. 協賛等依頼の件：3件の協賛・掲載等を承認した。

15. 入退会の件：2000年10月～12月の会員異動を承認した。また、会員数増に向け継続して検討をしていくこととした。

入会：正会員7名、学生1名

退会：正会員16名、賛助1社